

# 「助けるだけの介護」から「よくする介護」へ ～活動チェックシートを用いた自立支援の取り組み～

通所リハビリテーション ○ 高倉志野 寺川千奈津 井手真由美  
堤和子 正岡裕子 熊本章史 國武依子

## 【はじめに】

研究以前は介護度に関係なく本人の希望に沿った「助けるだけの介護」が多くみられた。しかし、全ての要望に応える事が出来る事を奪う介護となり、中重度の利用者が十分な支援を受けられずに業務拡張につながっているのではないかと考えた。そこで在宅生活を継続していく上でよりよい人生、生活を送り社会や家庭での役割（参加）が向上できるように職員の意識を変え、アプローチを行いながら本人の自立への意識を高め「よくする介護」への取り組みを行った。その結果を報告する。

## 【研究方法】

- I. 研究機関 平成29年4月～平成29年6月
- II. 対象者 要支援2要介護1の認定を受けた利用者 24名
- III. 方法 3月下旬 研究目的と内容を書面にて家族、本人へ説明し同意を得る  
アスピア活動チェックシート記入、モニタリング実施(全3回)

## 【結果】

活動チェックシート全34項目に対し、対象者の心身機能に合わせアプローチをした結果、I期は声掛けのみのアプローチで自ら行動する対象者は少なかった。しかしII期より環境面でアプローチを行った結果、自ら行動する対象者が増え、III期では対象者以外の利用者も自ら行動するようになり、中重度利用者に十分な援助ができ、充実したサービス内容、援助を提供できた。

## 【考察】

I期での介入時、大きな変化がみられなかったのは、声掛けのみのアプローチだった為、サービスが低下したと感じた事による不安感や不信感が原因だったと考えられる。再度研究主旨の説明と対象者以外の利用者にも同様のアプローチを行い、通所全体の流れとして全利用者への働きかけと環境整備、職員への伝達方法の改善を行った事で、III期は明らかに活動が向上した。課題を少しずつクリアする事が達成感に繋がり、また対象者以外の利用者も自発的に私物の管理や後片付けをするようになった事で、業務時間を短縮でき、中重度者に十分な支援が出来るようになったと考える。

## 【まとめ】

個別にアセスメントを行いアプローチすることも重要であるが、通所全体として雰囲気作りにも活動を活性化するのに大きく影響することが分かった。より自立への意識を高めるため、身体面や環境面だけでなく生活場面でプラスに変化した部分に焦点を当て達成感を得られるような関わりを持って行きたい。